

**私は子供の頃から“吉田”の姓を“吉田”と書いており、子供にも
そう教えたところ“吉”が正しく、“吉”は誤りだと先生に訂正された。
また、“木”も誤りだとのこと。いつから、どうしてそうなったのか**

昭和24年4月28日付官報...内閣告示第一号「当用漢字字体表」で漢字の標準字体が発表になりました。しかしこれは活字の基本を示したもので筆写の場合、漢字の識別に影響しない限り、点画の長短、方向、曲直、つけはなし、とめはね等については拘束しないものがある、という“まえがき”があり、その実例が挙げられています。

例えば、長短の例の一つに、“無・無”があります。従って“吉・吉”もその例で、どちらでもよいわけです。“土・土”は別字ですから、この長短は区別する必要がありますが、“吉・吉”は識別に影響がないので、どちらでもよいのです。

とめはねの例には“木”が、“来”“糸”等の例と一緒に挙げられていて、中央のたての棒線をとめてもはねてもどちらでもよいのです。

なお、方向に関する例に“糸”や“風”、つけはなしの例に“月”や“果”などが挙げられています。

以上でおわかりのように、他の字に読み違えられる恐れがない限り、“字表”の字体通りに書かなくてもよいのです。

ところが、多くの先生方はこの“まえがき”を読まないで、字体表通りの字を書かなければいけないものと思い違いをしていて、子供に字体通りに書くことを要求しています。そこで、“ ”や“木の中央の棒がはねたもの”を×にしているのですが、×にすることが誤りなのです。

かなでは決してやかましく言わないのに、漢字に限ってやかましいことを言うのは不合理であり、これが漢字教育を歪めています。教師の反省を求めます。